

Dance with Heart
The Kikunokai Troupe
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.
Chairperson Michiyo Hata

日本のおどり

発行:舞踊集団 菊の会

〒161-0031
東京都新宿区西落合2-21-23
03-5983-6001(代表)

菊の会京都八瀬研修所

〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町10
075-712-8701(代表)

http://www.kikunokai.co.jp

Dancing from the heart

日本でドイツやチェコのチケットの売れ行き状況をインターネットで調べた時は、わずかに3割程しか売れていなかったの心配していましたが、ところが当日までの一週間で完売したので、観たい人が自分の分だけを買って完売となる結果は本当に言葉にならない驚きであり、喜びでした。

また伝統あるチェコの劇場の楽屋の鏡の前で体感した事も忘れる事が出来ません。嘗て一井筒一の作品を創った時、能の名人が使用された中啓を使わせて頂きましたが、その時と同様に名人上手の方が使用された場所や小道具も何かを引き出してくれる事を感じたのです。一緒に行ったメンバーにとりましても大変意義ある公演となりました。

本年掉尾を飾る公演も全力で取り組み、新たな年を迎えたいと願っております。

今後共、何卒よろしく御指導、御支援賜ります様お願い申し上げます。



尾上菊乃里こと
畑道代

秋冷の候、益々御清祥にお過ごしのことと存じます。

今年も一月に町田市、千葉県柏市、埼玉県栗橋町、そして石川県金沢市で公演を行ってより何時もより大きな波動のほほえみを感じながら、あつという間にヨーロッパ公演となり、そして秋の自主公演、舞踊劇「藍の女」を迎えました。この間、皆様から頂きました書き切れない程の御厚情に対し、心から感謝の思いで一杯です。

今年の海外公演はドイツのエアフルト市のエアフルト劇場とドレスデン市の州立ドレスデン劇場(いずれも旧東ドイツ)、そしてチェコのプラハ市の伝統ある国立オペラ座での公演でした。

帰国して身近で心配して下さっていた方から、チケットがいくらでも二ヶ所完売、一ヶ所は九〇パーセント売れた事を聞いて「どなたが宣伝し、啓蒙してくれたのですか」と聞かれました。

いあいさつ

清元「北州」



ドイツ古都連盟 事務局長
イヴオンヌ・メーゲンス
Yvonne Megens

音楽と舞踊・・・ 異なる文化の架け橋とステップ



HISTORIC
HIGHLIGHTS
OF GERMANY

25年以上前の話になりますが、ドイツ古都連盟が創設されました折に、その目的の一つとして、豊かな歴史的遺産を有するドイツの都市を主要な外国市場に紹介し、これら13都市への訪問および体験活動を活性化することが挙げられました。日本も当初よりその対象に入っていました。

1000年余りの古い歴史を追想できる文化国家。そして伝統の基盤と時代を超越し有効な価値への敬意を払いつつ、主導的な工業国に発展した国。技術革新と傑出した技術力により、人間のコミュニケーションに大切なサインである最も重要な“言語”を創出し、描写し、音楽や舞踊をこの“世界的言語”の延長上の表現形式としてとらえることを地球上の多くの人々に可能にした国。すなわち、娯楽用電子機器という意味ですが、日本企業といえば即座にこれらの技術やコミュニケーションを意味しております。

そういう訳ですので今回、日本の舞踊グループ菊の会をドイツ統一後にドイツ古都連盟のメンバーに参入したエアフルト市にお迎

えすることは、ドイツ古都連盟にとりまして大きな喜びで御座います。これでエモーショナルな音や映像の言語での素晴らしい文化交流が行われます。ここでは翻訳は不必要です。今回歴史的、文化的に重要なエアフルト市で上演された音楽と舞踊は、日本文化への深く親密な洞察を可能にしてくれました。エアフルト市はかつてマルティン・ルターが住み、修道院にこもって思索をめぐらし深め、最終的には文化史上、傑出した人物となりました。また、ここではヨハン・セバスティアン・バッハも仕事に勤しみました。その作品は音楽史上、非常に貴重なものとされています。ヨハン・セバスティアン・バッハが生きていればきっと、この新しいエアフルト劇場の来賓席に座り、菊の会のみなさまに心からの拍手でお迎えしたことでしょう。ただし、今は天国の仕切り機数からですが、そのバッハの名におきましても、私どもは日本からの芸術家の皆様を心から歓迎し、エアフルト市での公演に対し心からの感謝をお伝えしたいと思います。



国際芸術交流支援事業 交流基金

両国で絶賛の拍手



友好協会総会於 熊澤大使御夫妻と共に、

ドレスデン、インゴルフ・ロスベルク市長へ表敬訪問

交流基金の助成、菊の会ヨーロッパ公演を開催。

られた屈指の最新式劇場「エアフルト劇場」で、またドレスデン市の中心街に位置すに聳え立つ「州立ドレスデン劇場」で開催。それぞれに地元や隣接の市長初め、文ました。又チェコのプラハ市では200年の歴史を有する国立オペラ座で開催しました。ンバー3名が1週間早く先乗りして、9月17日より国立美術館での「歌川国貞版画展」のオ祝賀舞踊を披露、続けて記者会見を行いました。イアにも多数取り上げられ、各会場ともに満席の盛況ぶりに加え、スタンディングオ中、繰り返されるカーテンコールは感動的なものとなり創立以来24カ国延べ78都市に了する事が出来ました。



で開催



E-mail

ドイツから
の
お便り

日本への郷愁



州立マイセン磁器工場 広報・観光部長
カイ・レオンハルト
Kay Leonhardt

私はこれまでに2年以上日本に住み働いた経験があります。そのため、日本は私にとっていつも帰りたくなる第二の故郷でもあります。9月29日、私は州立ドレスデン劇場で開かれた菊の会の2005年ドイツ公演を見に行き、それは私にとって本当に素晴らしい日本の夕べとなりました。公演を鑑賞している間、まるで日本にいるような気持ちになり、日本の仕事のこと、友人のこと、海や様々な自然の色彩を思い出しました。また、私は日本の香りに包まれ、日本の調べに浸り、日本の風景を見ることで、日本に居る気分を満喫することが出来ました。短い時間でしたが、日本を思い起こす素晴らしいひと時を過ごす機会を持てたことに大変感謝しております。畑道代先生、菊の会のみなさま、どうもありがとうございました。

舞踊家の 条件

踊りをとおして

社団法人 現代舞踊協会名誉会長
全日本舞踊連合会長

石井みどり



日本創作舞踊界の創始者、石井漢先生がよく申しておりました言葉。
「舞踊はその国の顔である」。私共は洋舞のジャンルに居りますがどこから見てもアジア人、変わることはないオリジナリティと自負している者です。
唄い、踊る、は太古より人間が自然との共存を願う「祈り」であり、祀りごとでもありました。人間が生まれながら誰にでも与えられる創造力、それこそ成長と共に養われる大切な生命への源であると信じます。舞踊家は生きた時間を共有する表現者。振付家(創造者)、踊り手(伝達者)とのコミュニケーションと理解力無くしては成り立ちません。
私が生徒であった頃は可能性があればこそ先生は怒ってくれるのだ！と益々張り切ったものです。「舞台に立つ迄は練習に最善を尽くします。それは本番を迎えたら総ての執着を捨ててなぞることなく無心で踊れることを望むからです。
文明の発展は便利をもたらしましたが「夢」「希望」を失いつつある今、心の栄養(生命力)を必要とされておきましょう。「五感」と申しますが、人間はこれらを一ひとつでもおろそかにできぬ生きものです。踊りは自ら汗して得ることを学ぶもの、子供さん、若者の大切なパワーを良い方向へ導く為に大人が考えねばならぬ時刻。踊りバカで通してきまして92才の私には今やお礼を申しつつも願うこと多き昨今でございます。



【特別寄稿】



駐チェコ共和国日本国大使
熊澤英昭
HIDEAKI KUMAZAWA

舞踊集団「菊の会」の皆様、ブラハ国立オペラ座での公演のご成功、心よりお慶び申し上げます。
今回、1888年1月の開館以来、グスタフ・マラー、リヒャルト・シュトラウス等世界的に著名な芸術家が公演を行った格式の高いブラハ国立オペラ座にて、伝統的な日本舞踊を基礎とした総合的舞台芸術公演「日本のおどり伝統と創造」をご紹介して頂きました。

今年、日本とEU加盟国との交流を深めるために年間を通して行われる「日・EU市民交流年」に当たります。チェコで実施された「菊の会」の皆様による本公演は、日本とチェコの文化交流の架け橋として、

日・EU市民交流年の秋のハイライト行事にふさわしく大変意義深いものでした。国内外で高い評価を受けた今回の公演は大変完成度が高く、また、歌舞伎・狂言等の伝統舞踊、日本各地の民俗舞踊、オリジナルの創作舞踊等、極めて幅広い分野の日本の舞踊を観客を魅了しました。優雅で華やかな「寿菊三番叟」、ユーモア溢れる「棒しばり」、轟く和太鼓の響き、はつらつとした阿波踊り等の演目は、私個人としても大変印象的でした。本物志向が強く芸術鑑識眼の高いブラハでは、外国の作品でも水準の高い芸術に対する賛辞は惜しみません。公演終了後、会場

平成17年度 文化庁国際 ドイツ・チェコ公演



エアフルト市文化局長のユルゲン・ボルンマン氏と共に、エアフルト市庁前於
日・チ...

「日・EU市民交流年」文化庁並びに国際...



ドイツ・エアフルト市に建る観光名所ツィンガー宮殿の文化機関の来賓など多数出席。ブラハでは畑代表はじめ公演オープニングセレモニーに招かれ、新聞テレビ、ラジオ等地元メーションで鳴り止まぬ拍手当たる本公演も無事盛会裏に



季節を彩る「アトリエ公演」を東西



「涼風に舞う」と題して7月に東京・菊の会スタジオで(演目・大和楽「おせん」、狂言舞踊「身替座禅」、舞踊選集「こころの四季」)を開催。また「錦秋に舞う」とのタイトルで、10月には菊の会京都八瀬研修所において(演目・清元「北州」、狂言舞踊「花冠者」、舞踊選集「錦秋に舞う」)、アトリエ公演を行いました。
樹木に囲まれ、小鳥の声やせせらぎの自然溢れる良い環境の中でアトリエ公演を楽しみにして下さる方々が徐々に増え、定着して参りました。特に第2部の畑道代構成・振付による舞踊選集は、新しい時代の音楽と共に誕生した現代邦舞ともいえる作品で、それぞれに季節感を漂わせた舞台は、観客に文字通り句の便りと感じて頂き、好評を博しました。





中村 章氏と菊の会公演メンバーの長男、次男の輝幸さん、英俊さん(マイセン於)

ヨーロッパツアーに参加して

友の会ツアーは9月23日から29日の期間でしたが、私は今回どうしてもとの思いで、思い切って参加させて頂きました。ドイツはエアフルト、ドレスデンそしてチェコのプラハというコースでした。私はドイツ訪問が初めてでしたが、ヨーロッパの長い歴史を感じさせるところでした。それもその筈、ドレスデンとプラハは世界遺産に登録されている所なのです。ドイツでの主な食事は、塩味の効いた肉類、サワークラウトとジャガイモ料理。文化の違いを知るためにも皆様も一度味わってみてはいかがでしょうか。

そして今回のメインである、エアフルトでの菊の会公演鑑賞会。会場に向かうツアーの皆さんは着物姿で美しいドイツの街並みに映えて壮観でした。そしてドイツの皆

さんが菊の会の舞台をどのような反応で見せて頂けるかが最高の関心事でした。会場内の雰囲気は最高で満席、チケットは一枚も残らず完売し、演目一つ一つに感動の拍手。そして最後にはアンコールの嵐です。舞台と客席が一体となった感動の公演でした。現地ガイドのドイツ在住35年ののり子さんは「日本人として誇れるものが一つ増えました」と言っておられました。この方はピアニストのフジ子ヘミングさんの友人で、その話を伺い帰国してからテレビでフジ子ヘミングさんの放映があり、不思議な気が致しました。畑代表や公演メンバーとは別行動なので、旅行中会えないと思っていましたら、マイセンでバツリお会いすることが出来、友の会の皆さん共々感激し、最高の思い出となりました。



菊の会「友の会」の皆様と畑代表、(ドイツ、マイセン工房)

友の会埼玉県支部長 **中村 章**
(千寿会責任者)



徳島「よしの節」のお鯉先生、畑代表と共に
(阿波おどり振興協会50周年祝賀会に於)

今年秋は、昨年的好评を受けて舞踊劇の大作「藍の女」を再演させて頂く事になりました。その中でモチーフとなる「阿波おどり」は今や、海外公演でも菊の会の十八番の演目として、先日のドイツ・チェコ公演でも賑やかにフィナーレを飾りました。過日、その阿波おどりを三十数年前からご指導下さっている、阿波おどり振興協会の設立50周年記念の、盛大なお祝いのお席にお招きを頂き、祝賀の舞として五人立ちの「石橋」を先輩と踊らせて頂きました。濱田会長はじめ、芸一筋に生きて来られたお鯉先生、そして徳島を代表する阿呆連の

皆様に温かく迎えて頂き、心に残る思い出を刻む事が出来ました。

一つの芸能を通じて知った、街を揚げ丸となって興隆させて来られた「阿波おどり」の歴史—そこには街を愛し、芸能を大切に、人のために誇りと責任をもって今日まで築いて来られたその素晴らしさに、心打たれました。昭和45年の大阪万博以来、変わらぬ交流を重ねてこられた畑代表と徳島の皆様のお姿に触れ、学ばせて頂く事が沢山有りました。思えば畑代表は、何十年も前から公演の合間やどんな忙しい中でも寸暇を惜しんで心を込めて手紙を書い

て来られました。何度も何度も書き直す時もあります。こうした目に見えない畑代表の努力のお陰で、様々な場面で人間として素敵なお方に会う機会に恵まれている事に感謝する毎日です。

現代は物質的には豊かに見える反面、本当のひととの交流は希薄になりつつあるとよく聞きます。だからこそ今や行政と一体となって進む徳島県に学び、日本の伝統芸能を支える方々との交流が益々重要である事を改めて実感致しました。

自身を磨く為、本当の心の交流を始めようと決意している今日この頃です。

「今こそ心の交流を」

プロフィール

武井 則男 Norio Takei

11歳より畑代に師事、菊の会の作品、および数々の海外公演に参加。

2004年全国舞踊コンクール(東京新聞社主催)において邦舞第1部で1位入賞。文部大臣賞、東京都知事賞受賞。

現在、公演メンバーの中核として活躍。

菊の会中杉子供教室の担当講師。



Kikunokai Information

【秋の自主公演】舞踊劇「藍の女」

11月19日(土) 日野市民会館 14時・18時
23日(水・祝) サンパル荒川 15時
25日(金) 町田市民ホール 14時・18時
12月2日(金) 所沢ミュージズ 14時・18時
入場料: ¥6,000 【全席自由】(当日券 ¥6,500)

12月6日(火) 山梨県立県民文化ホール 15時
14日(水) 館林文化会館 18時
入場料: 5,000円 【全席自由】(当日券 ¥5,500)

2006年

【菊の会新春公演】 ～日本のおどり～

1月20日(金) サンシティ越谷(小ホール) 14時半・18時半
1月22日(日) 鹿嶋勤労文化会館 14時半
1月26日(木) アミュゼ柏 14時半・18時半

(入場料) ¥5,000 全席自由(当日5,500円)

※チケットは「藍の女」の受付にて販売致しておりますので、何卒宜しくお願い致します。

(演目) 義太夫「延年三番叟」 清元「扇」 狂言舞踊「棒しばり」
舞踊選集「新しい時を刻んで」 Part II